

講演 「 明日からの保育に活かす絵本の読み聞かせ 」

講師 奈良教育大学 教授 横山 真貴子氏

●「絵本は大人が子どもに読むもの」
(松居直, 2001)

「子どもが自分で本をつくる」

= 耳から聞いた言葉の世界と
目で見えた言葉の世界(絵)が、
子どもの中で1つになり、
そこに絵本ができる。

●子どもは「絵」を読む
(元福音館書店絵本研究室 松村敏夫さん)

- ①音より声の世界を大切に!
- ②豊かな言葉をたくさん食べよう!
- ③絵が読める時代を大切に!

1. 絵本と子どもの発達

～絵本の読み聞かせの効果とは? 研究の概観より～

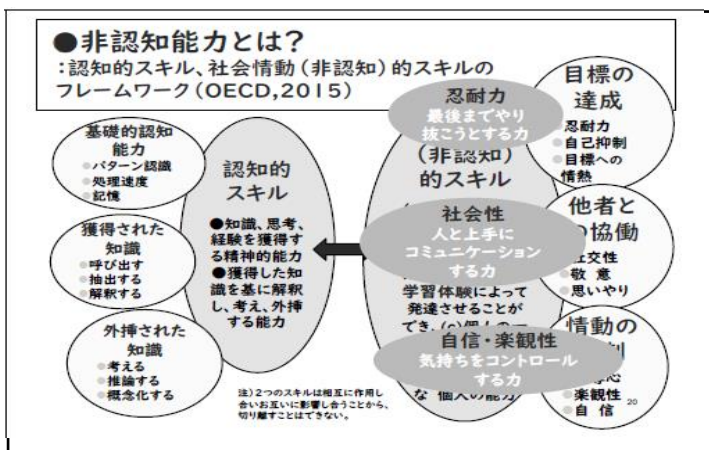
絵本は豊かな人生の第一歩!



- ① 子どもの頃の読書活動が多い大人は、現在読む本の冊数も多い
- ② 読書好きの子どもは積極的
- ③ 言葉が育つ: 言語・認知発達への影響
- ④ ”本を読むとはどういうことなのか”を学ぶ
- ⑤ 情緒的にも安定する(聞き手・読み手とも): 愛着・自己効力感との関連
- ⑥ 脳のはたらきが活性化
 - ・読み手 コミュニケーション
 - ・聞き手 感動・情動

言語・認知能力

非認知能力(社会情動的スキル)



体験活動に関する質問項目例	
自然体験	・海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたことなど
友だちとの遊び	・ままごとやヒーローごっこをしたことなど
家族行事	・家族で家の大掃除をしたこと など
動植物とのかかわり	・蝶やトンボ、バッタなどの昆虫をつかめたこと など
地域活動	・近所の小さい子どもと遊んであげたことなど
家事手伝い	・食器をそろえたり、片付けたりしたことなど

⑦ 読書と共に体験も重要

子どもの頃の読書活動と体験活動が多い大人ほど、大人になってからの『意識・能力』が高い。

2. 絵本と保育

子どもの年齢・発達にあった絵本の理解は重要！

● 0歳児の発達

赤ちゃんは語りかけてもらうことが大好き。
絵をみながら、いっしょに遊びましょう。
～言葉の楽しさ、絵の楽しさに出会う時期～

● 1歳児の発達

子どもたちは、絵本のページをめくると、
物語がはじまることがわかってきます。
～見たり読んだり、絵本の楽しみに気づく時期～

● 2歳児の発達

音の響きや物語に耳をそばだてるようになり、
気に入った言葉を次々まねて遊びます。
～おしゃべりが楽しい時期、絵本の言葉を
そのまま、まるごと楽しむ時期～

● 3歳児の発達

主人公になりきって、物語にとけこむ
ことも。
～お話の世界で、登場人物に
なりきって遊ぶ時期～

● 4歳児の発達

好奇心はますます旺盛に。本選びの幅も
ぐんと広がります。
～「心の理論」も成立し、自分とは違う世界に
興味をもち始める時期～

● 5歳児の発達

物語を深く心に受け止めることができるよ
うになります。もう一人の読書家です。
～じっくりとお話の世界を味わい始める時期～



絵本の体験は、子どもと大人が共に楽しみながら創っていくもの！

◎絵本と一緒に読む子どもの発達の様子・興味・関心・絵本経験を捉えることが大切

◎絵本はどの年齢でも楽しめるもの（その人なりの楽しさがある）

【参加者の声・気づき】

- ・様々なデータから、絵本が言語・認知能力や非認知能力の育ちにつながっていくことを知ることで、絵本の大切さを改めて見直す機会になった。
- ・子どもの頃の読書活動は、大人になってからの読書活動にもつながることを知り、保護者にも絵本の面白さや大切さを伝える機会を増やしていきたい。
- ・絵本を通し、子ども達との会話や生活体験につなげていきたい。
- ・『絵が読める』今の時期を大切に。
- ・家庭により絵本に出会いにくい環境である子、年齢により絵本に遠ざかっている子がいることを知った。
- ・読み聞かせ方法に正解はなく、「それぞれの楽しみ方があり、それで良い」という学びを自園で周知していきたい。
- ・たくさんの絵本、新しい絵本に触れることができ楽しかった。
- ・グループでの読み聞かせにおいて、読み方、選び方など参考になり、学びになった。

作成者 幼児教育アドバイザー 岩佐 朋子